

障害者雇用

③

東京・赤坂のスターバックスコーヒージャパン マネージャーは「彼女は「アークヒルズ店」。ダウチの貴重な戦力。いてウン症の障害を持つ大久もらわなければ困る存保さやかさん(21)がこ在」と語る。大久保さんの店のスタッフとして働も「給料で好きなアイドさ始めたのは二年前だった。内気な性格で当初はしみ」と笑う。

スターバックスコーヒージャパン



アークヒルズ店で働く大久保さん(左)

(東京・赤坂)

況が続いていた。障害者ームマネージャー。行受け入れた。大久保さん雇用率は「ゼロに近かつ政から注意を受けたこともそのうちの一人だ。た」(山川正員・人事チもあり、障害者十八人を「臨機応変さが求めら

作業細分化しミス減少

大久保さんが来て「究分かりやすく教えようと極のコーチング」と呼ばしたことで大久保さんも積極的に学ぼうとする意欲を持った」と山川マネ

内のすべての作業を細く分類し、それを究極のコーチングはアークヒルズ店に意外な効果をもたらした。それまでは以心伝心の指示が多かったため、スタッフの勘違いによるミスがあった。大久保さんがいることで「正確で密なコミュニケーション」が台言

すきっぷの宮武秀信・施設長も「障害者雇用を店舗運営のレベルアップに結びつけた好例」と評価する。

れる接客サービス業で障さらの一つ一つの単純作業に分解する。健常者には心伝心の指示が多かったため、スタッフの勘違いによるミスがあった。大久保さんがいることで「正確で密なコミュニケーション」が台言れば習得できない。薬になり、勘違いがほとんどなくなった。

現在、三十八の店舗で一人ずつ障害者を雇用しているが、「サービス水準の低下や来店客とのトラブルは起きていない」(長島芳明)